

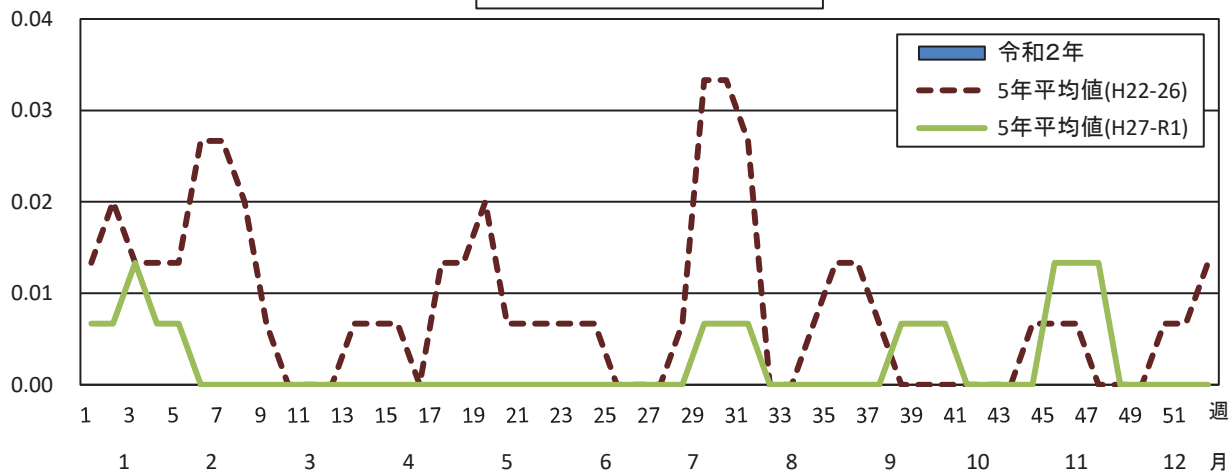
ウ 眼科定点

(ア) 急性出血性結膜炎

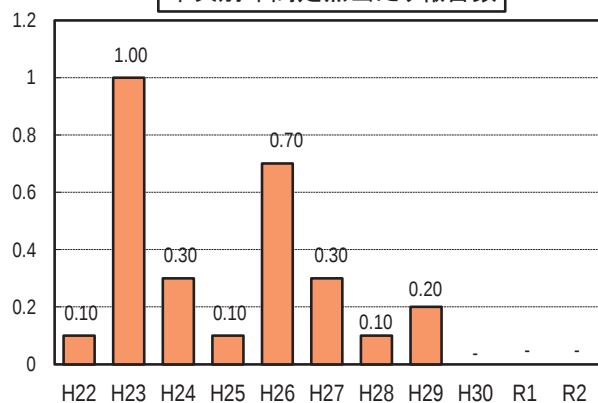
令和2年は前年、前々年に続き、報告がなかった。

過去10年間の年間定点当たり報告数は、最も多いのは平成23年(1.00, 報告数10例), 次いで平成26年(0.70, 報告数7例), 他の年は0.5(報告数5例)以下であった。

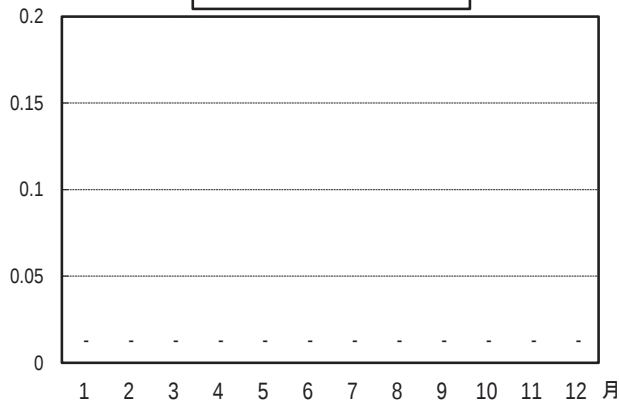
週別定点当たり報告数の推移



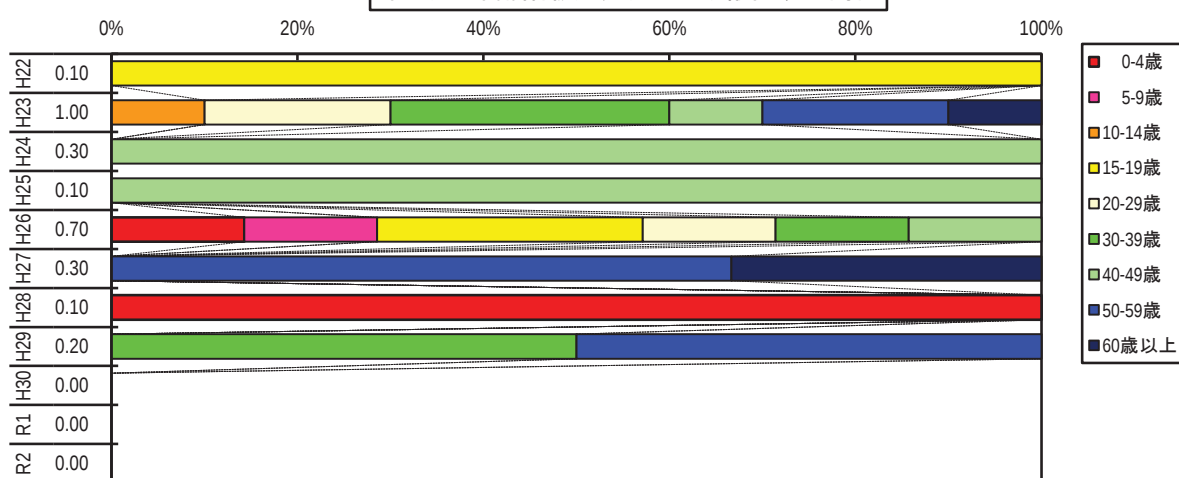
年次別年間定点当たり報告数



月別定点当たり報告数



年次別・年齢階級別定点当たり報告数の割合



(イ) 流行性角結膜炎

令和2年は年間報告数74例、年間定点当たり報告数7.40、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.37、前年比0.52であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数は平成30年から連続で減少し、最も少なかった。

月別定点当たり報告数では、1月(1.60)、8月(1.10)、6月及び7月(共に0.80)の順に多かった。

年齢階級別では、40～49歳(24.3%)、30～39歳(23.0%)、次いで20～29歳(17.6%)の順に多かった。

